

月刊 あったかいご通信

月刊「あったかいご通信」を発行する土地活用研究会は、地域密着の建設会社が福祉施設の開業をサポートする全国50社の国内最大級のネットワークです。毎月、業界の最新情報や成功事例をお届けします。業界全般の最新情報や経営のコツ、利用者募集や人材マネジメントなどリクエストも大歓迎です！

※記事引用・厚生労働省・国土交通省・㈱官公通信社・高齢者住宅新聞社・福祉新聞・日本経済新聞 他

令和元年11月号

【発行元】

岐阜県福祉のまちづくり推進協議会
〒501-3246

関市緑ヶ丘2-5-78

TEL : 0120-337-301

FAX : 0575-24-5733

ケアプラン点検に人工知能を活用 ケアマネとAIのプランを比較



保険者によるケアプラン点検にAI（人工知能）を活用する試みを神奈川県が初めた。

専門的な知識が十分でない市町村の職員が少なくない。そうした状況をAIで補う。ケアマネジャーにも新たな“気付き”の機会として、更なるレベルアップ、資質の底上げにつなげていく狙いだ。有識者の参画も得て、ここからどんな知見を得られるか詳しく検証するという。厚生労働省から交付金を受けて実施する。

「介護現場の革新」に向けたパイロット事業の一環。厚労省は効果的な取り組みを全国に横展開する計画で、神奈川県の試みの行方も注視していく構えだ。自治体がこの分野でAIを用いる動きが広がる可能性もある。

使うのは「CDI Platform MAIA」。自立支援・重度化防止の視点を特に重視して設計されているのが特徴。

利用者の状態がブラウザで入力されると、「MAIA」は類似する過去の利用者の状態が改善された際のデータ等に基づき、望ましいサービスの種類、頻度、組み合わせを3パターン示す。そのプランを採用すると約1年後に利用者のADL、IADLがどう変わっているか、といった将来予測もあわせて提示。ケアマネはこれらをベースに、利用者の希望や家族のニーズ、暮らす環境、といった様々な要素を総合的に勘案し、最適なプランを練り上げていく。

神奈川県はこうした機能をケアプラン点検で活かさないか試す。例えば、ケアマネが一から作ったプランと「MAIA」のプランの将来予測を比較。その違いを見出し、自立支援・重度化防止に資するケアプランのあり方を議論してもらう。市町村の担当者とケアマネの双方について、不足している視点の補完に結びつける構想だ。

この夏から実際にケース検討会を開始。今後、ケアマネ1人あたり10件のプランを取り上げていく。神奈川県は年内にも有識者による検証、成果の抽出までこぎ着けたい考えだ。